

小山ボーイズニュース

NO. 3-3

発行責任者 N.P.O法人小山ボーイズ球団

連盟スローガン「愛ある指導」青少年育成を考える

育成指導を考える1

野球による青少年育成事業を始めて十年が経過しました。学童野球を入れますと、プラス十年になります。

指導者になる時には、本気で上手くなりたいた子供たちに半端な知識で指導できるはずがないと考え、あらゆる教本を読み、講習会に出かけ、自分の経験と照らし合わせ、指導方法を探ってきました。皆そうしていると思いますが。

スポーツ界は、体罰問題を範として指導法改善に動き出しています。しかし、それはずっと以前から気が付いていたことで、誰も手をつけなかったことではない。コーチングを勉強してきた者たちや世界のスポーツ界を覗いてきた者は動き出していた筈です。ただ伝わりにくかっただけなのです。

どうしても好成績を上げている指導者は、自分の指導に自信があつて中々受け入れづらいのでしょうか。しかし、今多くの野球愛好家のみならずスポーツ指導者がさらなる飛躍に向け、指導法について改善が始っています。

最近では、元プロ野球選手がアマチュア野球指導の資格を持つるように、研修会が何度も開催されています。そうなるアマチュアの指導者にもライセンスが必要という話になるでしょう。

ライセンスが必要になれば、文句なしに研修制度が導入され、他チームとの比較がなされ、各連盟からの指導も

負荷される筈です。上位団体から指導法を指摘されないと改善できないのは、チームの運営が厳しくなりますから、当然自主的に改善すべきです。少子高齢化で野球少年の絶対数が減少している中、我々野球クラブは指導レベルの向上が最大の課題になります。

今が改善の時、思案の時です。成長期にマツチした指導で野球の楽しさを伝え、いつまでも野球が大好きな野球少年の育成を目指す時です。私の仲間で大阪・堺ビッグの瀬野代表のメッセージを紹介します。本当に素晴らしい活動をされています。



彼らの未来のために、私たちができること、すべきこと
一度、本当に考える必要があるのでないでしょうか？ 私は仕事でアメリカへ行くことがありますが、海外の指導者は日本のアマチュア選手の酷使に大きく驚いているのが現実です。日本流といつまでも言っている時代ではないと思います。私も「子供のため」と、常に言っていて、このボーイズリーグに携わっています。時は流れていきます。「経験論」のみで、昔から何も変わっていない指導をしていないでしょうか？ 朝から晩まで、指示をし続けて、彼らの創造力、思考力を奪っていないのでしょうか？ 勝つには人より多く練習と言っていて、成長期の子供に、とても大切な

彼らのゴールは、これからの厳しい時代、人生をどう生きるかです。「甲子園に出るため」「強い学校に入るため」ではなく、彼らの人生に生かされるアプローチをみんなが共有していくことが、これからのボーイズリーグの発展につながるのだと感じています。

彼らの未来のために、私たちができること、すべきこと
一度、本当に考える必要があるのでないでしょうか？ 私は仕事でアメリカへ行くことがありますが、海外の指導者は日本のアマチュア選手の酷使に大きく驚いているのが現実です。日本流といつまでも言っている時代ではないと思います。私も「子供のため」と、常に言っていて、このボーイズリーグに携わっています。時は流れていきます。「経験論」のみで、昔から何も変わっていない指導をしていないでしょうか？ 朝から晩まで、指示をし続けて、彼らの創造力、思考力を奪っていないのでしょうか？ 勝つには人より多く練習と言っていて、成長期の子供に、とても大切な

育成指導を考える 2

学童野球大会の事務局を10数年やってきまして、心配なことは参加賞の数が半分くらいに減ってきています。少子高齢化とはいえ、何とか子供たちが野球に向いてくれないかと思っています。



サッカー教室には5歳くらいから来る子がいるらしい。ならば我々も頑張らないといけない。

考慮中ですが、Tボールや親子でキャッチボールのイベントを企画して、安定稼働に持っていきたい。或いは保育所や幼稚園に、柔らかいボールを寄付して、投げたり打ったりして遊んで欲しいですね。

学術的にも、運動神経・動きはジュニア期に伸びるもので、癖のない投げ方や打ち方は、小学生の低学年に覚えやすいとされています。野球は楽しい、テレビやゲームより楽しいものと思わせたいですね。

大人も同じですが、楽しいと思うことは時間を忘れて夢中になります。夢中になれば、何事も上手くなる筈です。趣味のゴルフだって、スキーだって皆同じことでしょう。



問題はここです。プロ野球中継が少ないし、いろいろなスポーツがありますから、我々の子供時代のように誰もが基本ルールを分かっていた頃とは違います。益々、そういう傾向になって行きそうですね。

今の時代、お母さんと子供に「野球は面白い」と思わせないと、野球人口は増えません。ここを十分に考えないといけない。少子化で子供に目が届く時代、我が子の扱いは興味津々だということを頭に置くことです。とにかく、柔らかいボール

と柔らかいバットを持たせることが第一だということです。

野球を始めたばかりの子供は、バットにボールが当たった！ボールがグローブに入った！それだ



けで、凄い笑顔を見せてくれます。ホームランなんて打ったら、大喜びで親に報告するでしょう。

私も小学生の頃は、放課後に友達と三角ベースボールをやって遊ぶのが大好きでした。あのときの楽しかった思い出があったからこそ、ずっと野球を続けられたし、今でも野球に携わっているのだと思います。

子供は遊びの中の、楽しい、悔しいから色々なことを覚えて

いくものです。だから、指導者が教えるというよりも、子供が自分で見つけることが大事です。興味を持ってくると本を読んだりもしますからね。

体操床運動の白井選手は、3歳の時から体育館に行き遊んでいたそうです。その雰囲気を感じながら、体操スクールで育ってきた訳です。自由に遊びとして、トランポリンやマット運動などで、成長してきた。指導者が見ていないという環境が、高度な技を作り上げた、「ああしろ、こうしろ」と言われずに育ったことが良かったようです。

余計なことを言わない指導者の指導力が、素晴らしい結果を生んだのだと言えます。

日本古来の技術

伝承には、その技術に直接的に関係のないと思われるような掃除や整理整頓、道具の手入れから始められ、技術は見て覚え、ある程度の技量がついてから、的確なアドバイスを受けて育つという流れがあります。

時間をかけて一人前になり、見る目を肥やし、技術の向上が付いてくる。ここにも、師匠の弟子を見る目、忍耐と観察力が弟子の育成に必要であると言われて

ています。これこそ、日本人らしい手法なんだろうと思います。(了)



BASEBALL
PRO SHOP
石川スポーツ

TEL0282-24-3161
専門スタッフが心から
アドバイスをします

LPガスHOTライン
本社(小山市出井)

0285-30-1011

下野支店

0285-53-7751

(株)トチネン